

大学生×高齢者の共生レジデンスで
釧路の交流と循環を生み出す
ー 釧路式異世代ホームシェアの実現に向けてー

北海道釧路湖陵高等学校
教諭 高橋 翔

01

釧路市の概要

02

現状分析

03

提案内容

04

今後の展望



- 北海道の東側に位置し、札幌からJRで**約4時間**、飛行機で**約45分**
- 自然：**釧路湿原**・**阿寒摩周**など世界的に貴重な資源（**タンチョウ**、**阿寒湖のマリモ**）
- 産業：酪農・林業・水産の“食料基地”で食品・製薬・製紙、炭鉱が地域経済の核
- 物流：重要港湾の釧路港と釧路空港、北海道横断自動車道の整備で機能強化
- 環境：自然保全と循環型社会の実現に向けた取り組みを推進
- 生活：**夏は最高気温25℃前後**と涼しく、移住・長期滞在にも適した気候



01

釧路市の概要

02

現状分析

03

提案内容

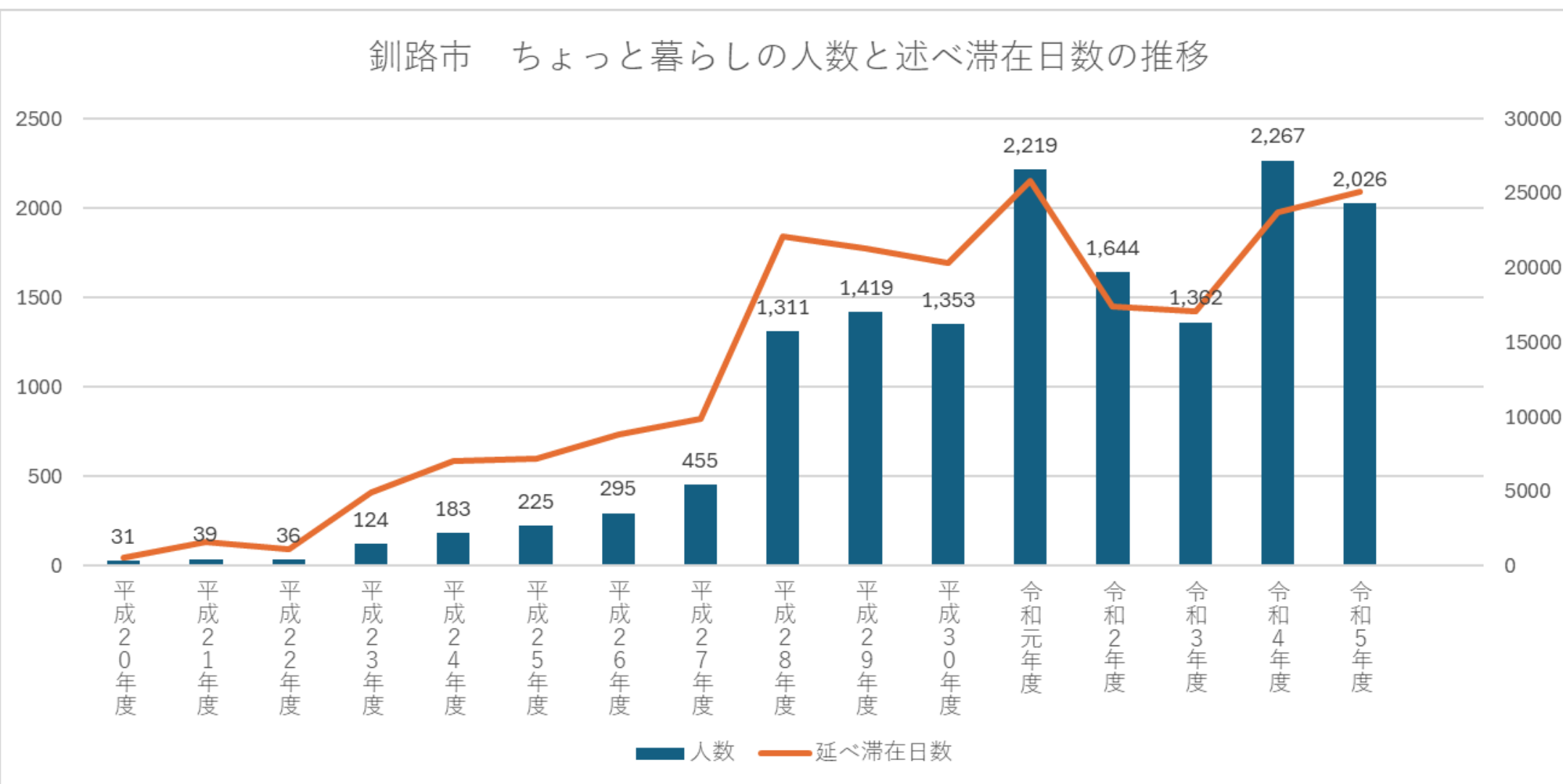
04

今後の展望



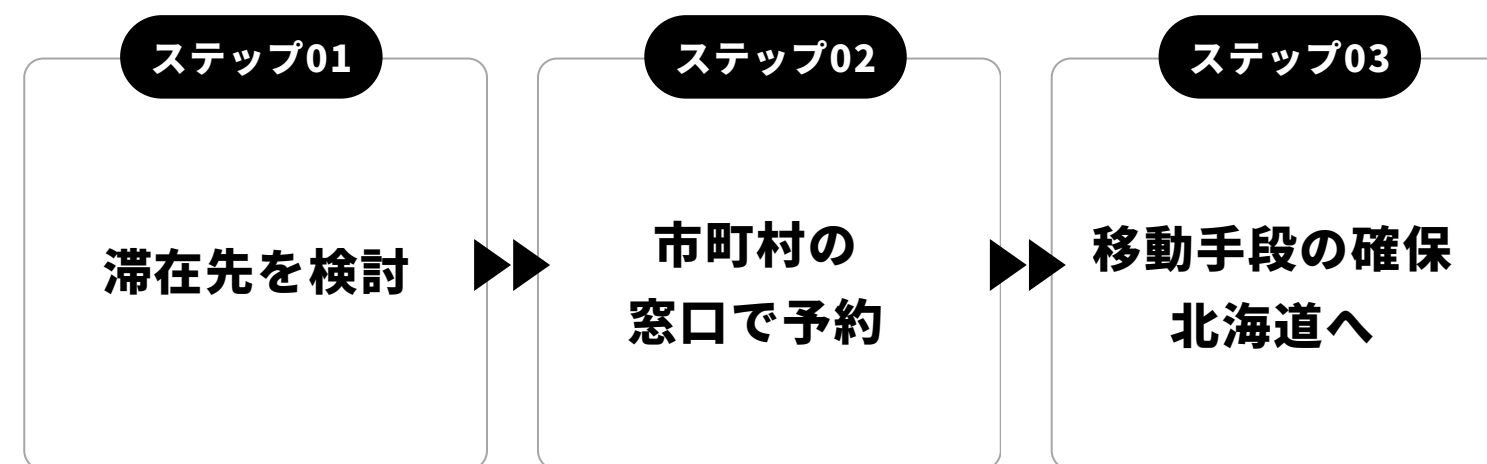
『北海道体験移住「ちょっと暮らし」』 平成23年度から13年連続での全道第1位

釧路市 ちょっと暮らしの人数と述べ滞在日数の推移



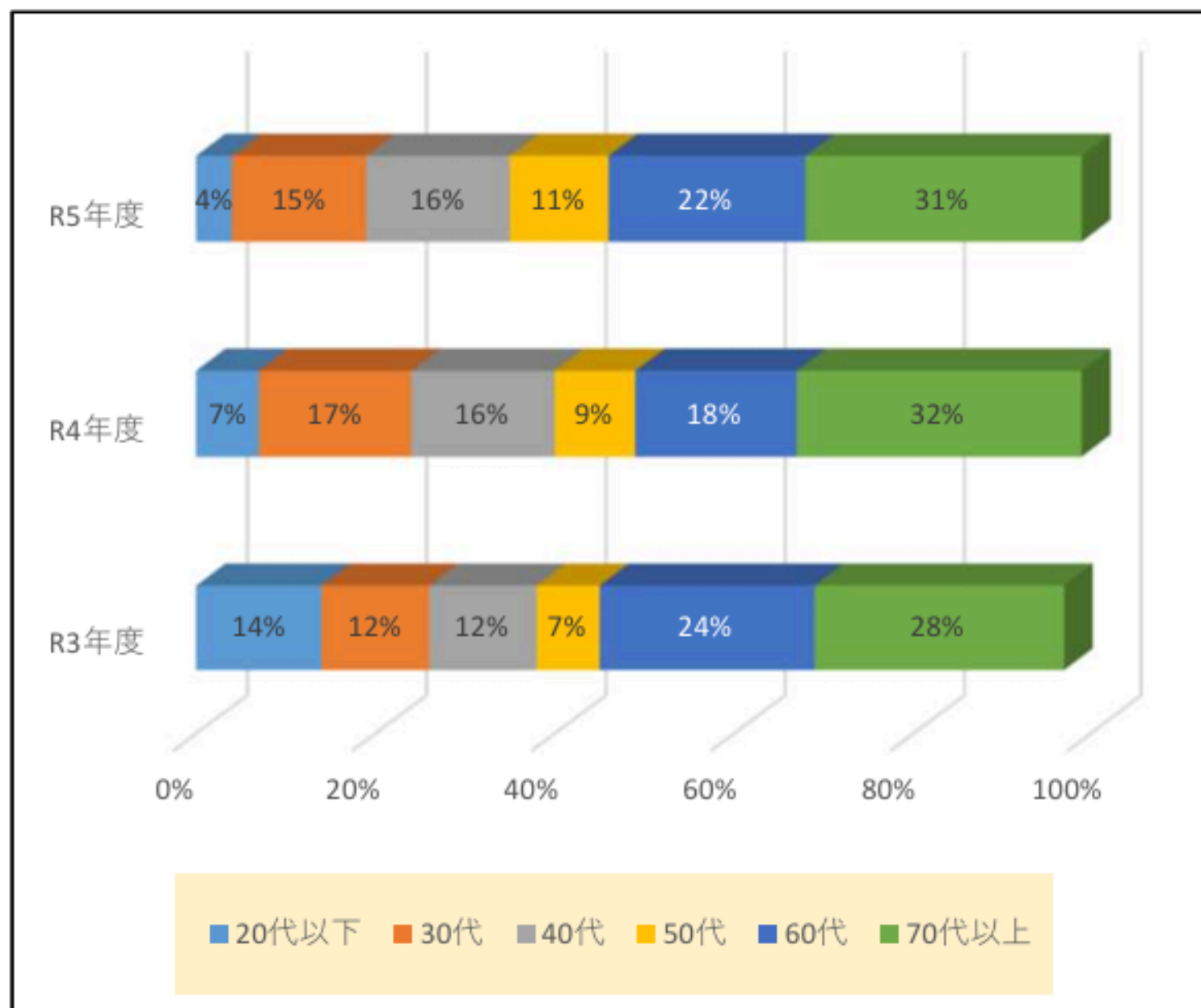
「ちょっと暮らし」とは
市町村が用意する家具・家電付きの住宅や長期滞在用施設を利用して生活体験できる制度

滞在地決定ののプロセス



【出典】 釧路市HP 長期滞在者の来訪実績より

『北海道体験移住「ちょっと暮らし」』 全道第1位の釧路市にも課題が！？



60歳以上が半数を占めている
20代以下の数値は減少し続けている

(R03：約190名→R04：約155名→R05：約80名)

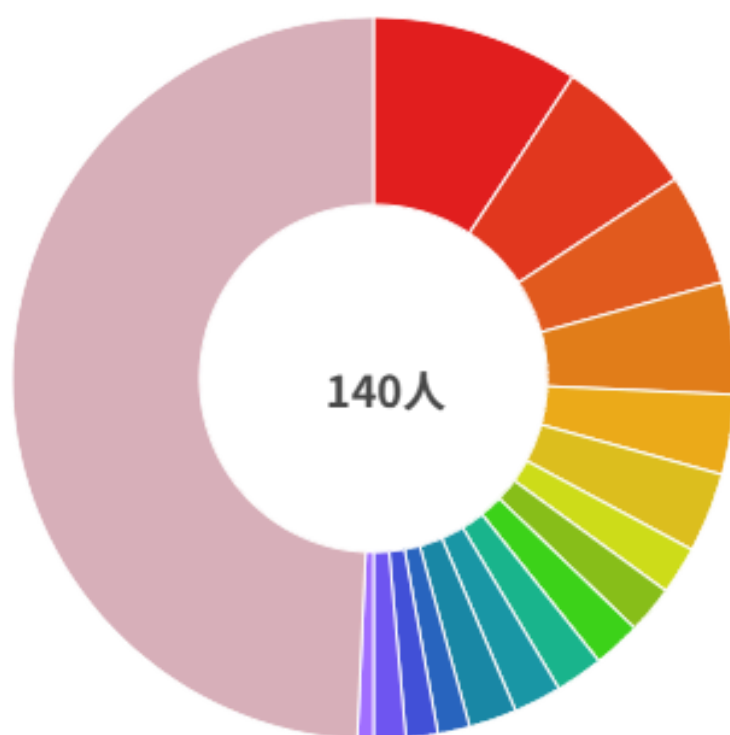


20代以下の移住促進策が必要

From-To分析（定住人口）

転入超過数内訳

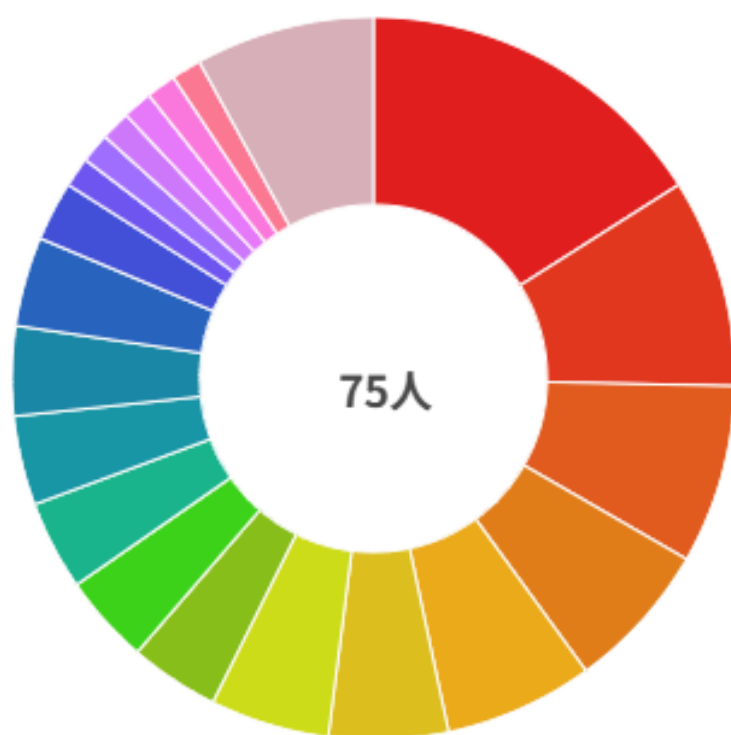
総数 20歳未満



- 1位 岩手県盛岡市 13人 (9.29%)
- 2位 北海道音更町 9人 (6.43%)
- 3位 北海道標茶町 7人 (5.00%)
- 4位 青森県八戸市 7人 (5.00%)
- 5位 北海道幕別町 5人 (3.57%)
- 6位 北海道滝川市 5人 (3.57%)
- 7位 北海道別海町 3人 (2.14%)
- 8位 北海道旭川市 3人 (2.14%)
- 9位 北海道登別市 3人 (2.14%)
- 10位 北海道帯広市 3人 (2.14%)

転入超過数内訳

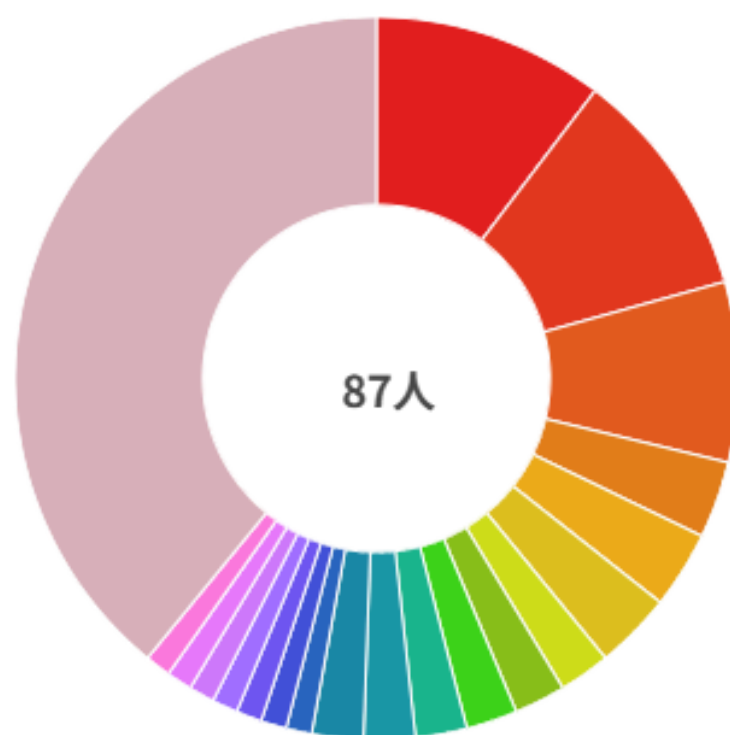
総数 40歳台



- 1位 北海道根室市 12人 (16.00%)
- 2位 北海道標茶町 7人 (9.33%)
- 3位 北海道札幌市北区 6人 (8.00%)
- 4位 北海道稚内市 5人 (6.67%)
- 5位 北海道中標津町 5人 (6.67%)
- 6位 北海道幕別町 4人 (5.33%)
- 7位 北海道別海町 4人 (5.33%)
- 8位 北海道滝川市 3人 (4.00%)
- 9位 北海道岩見沢市 3人 (4.00%)
- 10位 北海道江別市 3人 (4.00%)

転入超過数内訳

総数 50歳台



- 1位 北海道釧路町 9人 (10.34%)
- 2位 北海道根室市 9人 (10.34%)
- 3位 北海道標茶町 7人 (8.05%)
- 4位 北海道幕別町 3人 (3.45%)
- 5位 北海道別海町 3人 (3.45%)
- 6位 北海道音更町 3人 (3.45%)
- 7位 北海道室蘭市 2人 (2.30%)
- 8位 北海道岩見沢市 2人 (2.30%)
- 9位 北海道千歳市 2人 (2.30%)
- 10位 北海道滝川市 2人 (2.30%)

【From-To分析（定住人口）より】

20代未満の転入超過内訳から、本州から若者の転入が見られるが、その親世代と考えられる40代・50代にはその転入は見られない



大学進学を機に、
一人で釧路に転入してきた可能性がある

釧路公立大学・釧路教育大学における 本州からの令和6年度入学生

| 地域区分 | 釧路公立大学 | 釧路教育大学 |
|-------|--------|--------|
| 東北 | 51人 | 26 |
| 関東 | 31人 | 30 |
| 北陸 | 1人 | |
| 甲信越 | 13人 | |
| 東海 | 13人 | |
| 近畿 | 15人 | |
| 中国 | 6人 | |
| 四国 | 1人 | |
| 九州・沖縄 | 14人 | |
| その他 | 6人 | |
| 合計 | 151人 | 56人 |

【両大学の令和6年度の入学生内訳より】
200名以上の入学生が道外から来釧している
東北の割合が多いが、日本全国から集まってきている



釧路市に定住したいと思わせることは可能だろうか？

01

釧路市の概要

02

現状分析

03

提案内容

04

今後の展望



釧路式異世代ホームシェアを実施



異世代ホームシェアとは、異なる世代の人々が一緒に暮らす新しい住まいの形です。高齢者の家に若者が住み込み、プライベートな空間を保ちつつも、日々の生活の中で自然な交流が生まれるのが特徴です。

大学生と高齢者が一緒に住む仕組みづくり

大学生側のメリット

家賃・光熱費などの生活費の節約
親のような存在がいる安心感

若者同士のシェアハウスより落ち着いた生活が送れる

高齢者側のメリット

家賃・光熱費などの生活費の節約
孤独感の解消と精神的な安心感

もしもの時に助けてもらえる安心感

異世代シェアハウスに関わる先行事例

この仕組みは、1990年代にスペインで始まり、その後は、欧米諸国で取り入れられるようになった。日本では例が少ないが、京都府・奈良県・福井県などで広がりを見せている。最も先進的な事例としては、京都府の次世代下宿「京都ソリデール」事業が挙げられる。

「京都ソリデール」事業について

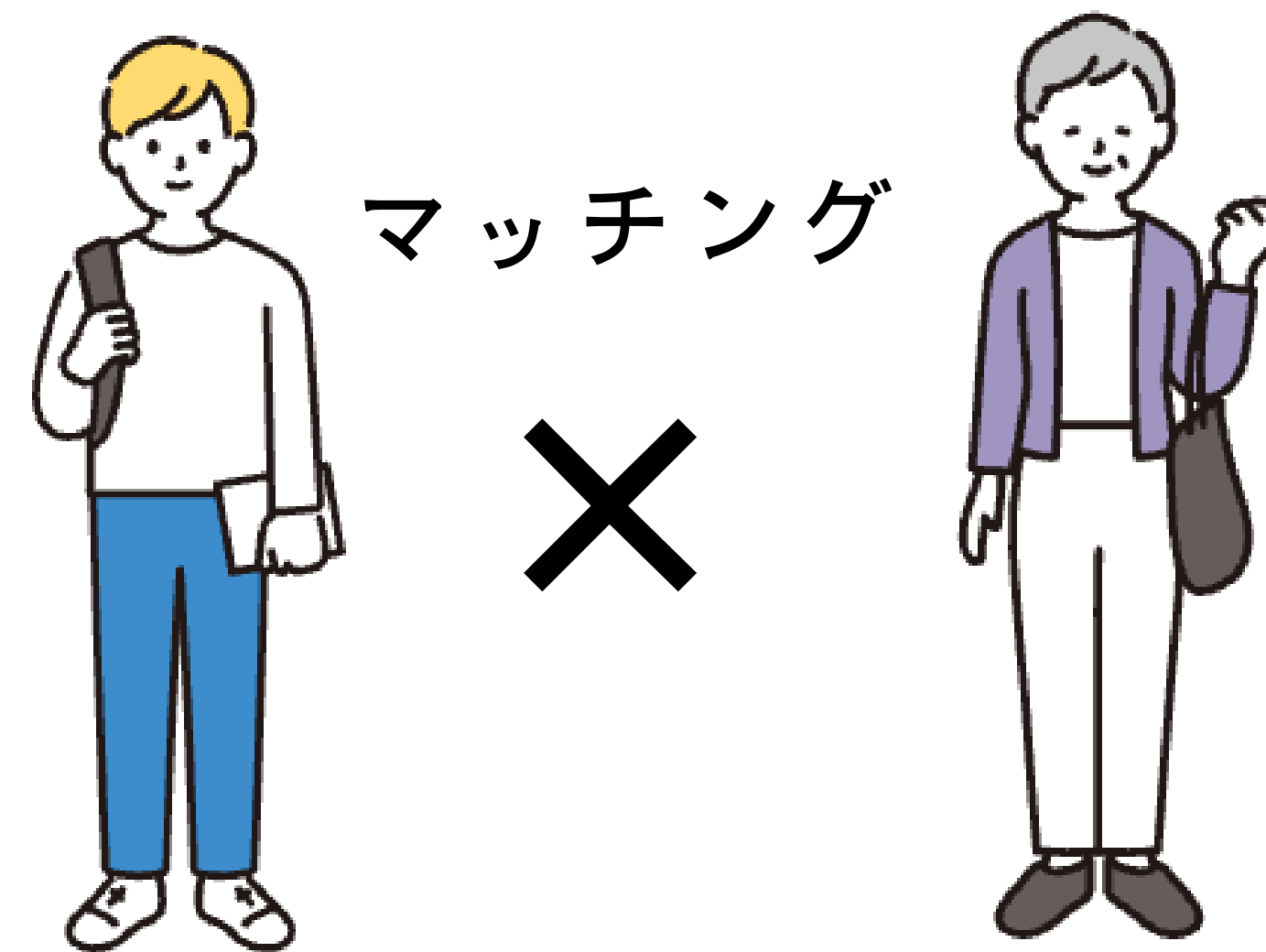
京都府が進める“異世代ホームシェア”型の住まいづくり。高齢者の自宅にある空き室を、大学生など若者が低廉な負担で借りて同居し、日々の交流や見守りにつなげることをねらいとしている。事業は平成28年度（2016年度）にスタートし、現在も継続的に案内・相談会が行われている。

家族じゃないけど同居して
「ただいまぁ〜」「おかえりい♪」
「今日なにしたん?」「あんなぁ…」
懐かしくて新しい住まい方をご提案



釧路式異世代ホームシェア

釧路市の大学生と高齢者がホームシェアする仕組み。住居については、高齢者の自宅の空き部屋や、活用されていない空き家を使用する。大学生の生活支援と高齢者の生活支援を相互に担う相互扶助の仕組み。



到達目標

- ・ マッチング成立：30～40組（初年度10～15組→拡大）
- ・ 継続率：80％以上、中途解消率：15％以下
- ・ 住居費軽減額（学生平均）：▲1.5万円／月
- ・ 高齢者の主観的孤立感の低下（自己評価アンケートより分析）

釧路式異世代ホームシェアの事業スキーム

【現状分析】

釧路在住の
高齢者と大学生の
ホームシェアに対する
ニーズの分析

↑ 釧路湖陵高校の
データ分析の授業で実施

分析結果の
提供



釧路市

希望学生数の
把握依頼



釧路公立大学

釧路教育大学

希望調査

釧路市が
面談を実施
↓
マッチング

高齢者

在学生

希望調査

釧路市が事業委託を
検討して面談などを
委託する方が現実的

釧路を第2の故郷化



帰釧したい気持ちを
醸成する

13 提案内容

釧路市の空き家を活用することも可能

| 調査年 | 総住宅数 | 空き家 | | | | | 空き家率 | 賃貸・売却用 及び二次的 住宅を除く 空き家率 |
|--------|--------|--------|---------------------------------|-------------|-------------|-------|------|----------------------------------|
| | | | 賃貸・売却用 及び二次的 住宅を除く 空き家 | 賃貸用の 空き家 | 売却用の 空き家 | 二次的住宅 | | |
| (表章単位) | (戸) | (戸) | (戸) | (戸) | (戸) | (戸) | (%) | (%) |
| 平成20年 | 95,260 | 14,760 | 4,680 | 9,710 | 320 | 50 | 15.5 | 4.9 |
| 平成25年 | 95,090 | 14,900 | 4,830 | 9,580 | 390 | 100 | 15.7 | 5.1 |
| 平成30年 | 94,620 | 13,740 | 5,170 | 8,080 | 320 | 170 | 14.5 | 5.5 |
| 令和5年 | 95,150 | 18,160 | 6,260 | 11,160 | 610 | 130 | 19.1 | 6.6 |

【出典】
釧路市HP 住宅・
土地統計調査結果
の推移より

釧路市の空き家数は令和に入ってから大幅な増加が見られる。
空き家の増加は景観や治安の面からも悪影響があると言われているため、
対策が必要となる。異世代間ホームシェアで活用すれば空き家問題を解決
に導ける可能性もある。

01

釧路市の概要

02

現状分析

03

提案内容

04

今後の展望

事業の法的整備

- ・ 契約書や規約の法律的な妥当性のチェック

各関係団体との連携

- ・ 詳細な事業計画のフロー作成
- ・ 各関係団体の役割分担の明確化

「釧路らしさ」を生かした差別化から観光へ

- ・ 「ちょこっと暮らし」構想と連携（短期滞在者×学生の交流イベント）
- ・ マリモ・湿原等の地域資源を活かした交流プログラム